



年頭のご挨拶

令和五年改歳の吉辰、謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃より当山の護持発展に厚き御道念を頂き、深謝致します。

新春を迎える心は、それぞれの世代によって、異なった感覚を持っているとしても、共に新しい生命息吹を感じる喜びは一つであると思います。

仏教においては「日々是好日」であり「本来無東西」であります。年において、月において、日において、切れ目を立てることは、心を改める道でもあります。新年は心を洗う切れ目として尊重したいと思えます。

すがすがしい大気を胸一杯に吸って今年も元気に目標に向かって努力しましょう。努力の人には希望があります。希望こそ生きがいです。昨年と明日の間にある今日を精一杯生きたいものです。

新春を迎えて私達は老いも若きも自分達のおかれていた社会情勢を慎重に洞察して、物心両面における、安心で生きる平和と繁栄に邁進しなければならぬと痛感する次第であります。

終りに檀信徒皆様方のご健寿と萬福多幸を祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。

合掌

三十世住職

轟 省吾

護持会だより

本年も宜しくお願い致します。

総代、世話人様の新任、交代がありましたことをご報告いたします。

昨年十一月六日の総代会に於いて田村俊樹様が新たに総代に任命されました。

北軽井沢地区世話人さんの交代がありました。

(旧) 清水忠雄様 (新) 田島敏治様
(旧) 宮澤昭次様 (新) 須原伸雄様

長年務めて頂きました清水忠雄様が昨年十月に亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

田村俊樹様、田島敏治様、須原伸雄様は改めて次号でご紹介させていただきます。

総代

会長 櫻井芳樹
副会長 黒岩元
書記 佐藤良平
会計 宮崎輝久
監事 櫻井俊樹

櫻井芳樹
黒岩元
佐藤良平
宮崎輝久
櫻井俊樹
田村俊樹
永井芳司
萩原宗仁

長野原

岩木夏雄
割田伸男
長谷川浩一
篠原博史
浅見良雄
湯本敏雄
山口久夫
黒岩清次
中村剛
小林寛
小林柳一
萩原國男
豊田清
青木博文
神戸久利
斎藤光善
田島敏治

大津

岩木夏雄
割田伸男
長谷川浩一
篠原博史
浅見良雄
湯本敏雄
山口久夫
黒岩清次
中村剛
小林寛
小林柳一
萩原國男
豊田清
青木博文
神戸久利
斎藤光善
田島敏治

羽根尾

岩木夏雄
割田伸男
長谷川浩一
篠原博史
浅見良雄
湯本敏雄
山口久夫
黒岩清次
中村剛
小林寛
小林柳一
萩原國男
豊田清
青木博文
神戸久利
斎藤光善
田島敏治

与喜屋

岩木夏雄
割田伸男
長谷川浩一
篠原博史
浅見良雄
湯本敏雄
山口久夫
黒岩清次
中村剛
小林寛
小林柳一
萩原國男
豊田清
青木博文
神戸久利
斎藤光善
田島敏治

横壁 川原湯畑
北軽井沢

岩木夏雄
割田伸男
長谷川浩一
篠原博史
浅見良雄
湯本敏雄
山口久夫
黒岩清次
中村剛
小林寛
小林柳一
萩原國男
豊田清
青木博文
神戸久利
斎藤光善
田島敏治

岩木夏雄
割田伸男
長谷川浩一
篠原博史
浅見良雄
湯本敏雄
山口久夫
黒岩清次
中村剛
小林寛
小林柳一
萩原國男
豊田清
青木博文
神戸久利
斎藤光善
田島敏治

岩木夏雄
割田伸男
長谷川浩一
篠原博史
浅見良雄
湯本敏雄
山口久夫
黒岩清次
中村剛
小林寛
小林柳一
萩原國男
豊田清
青木博文
神戸久利
斎藤光善
田島敏治

主な活動のご報告（令和四年後半）



①八月五日
天明三年浅間山噴火物故者供養
天明三年（一七八三年）八月五日、浅間山の大噴火があり、大字長野原は鎌原村の四八三名に次ぐおよそ二四〇名の方が犠牲になりました。

②八月十四日大施食会
総代世話人様に代表してお焼香して頂きました。

③九月二十日長野原町戦没者追悼式
境内にある忠霊塔は第二次世界大戦の長野原町の戦没者の霊を顕彰しています。読経の後、雲林寺梅花講の皆様が戦災精霊供養御和讃をお唱えして頂きました。

④九月二十三日
勢至菩薩、観世音菩薩供養祭（横壁）

一六八四（貞享元年）に建立され、ダム建設に伴い平成二十三年に移転地に新設されました。

⑤九月二十六日
群馬満蒙（まんもう）拓魂之塔供養祭

二年ぶりに開催されました。群馬県から約八千人が旧満州に渡ったとされ、群馬県出身者の霊を弔うために一九七四年に塔が建立されました。

⑥十一月十五日
学芸員と巡る歴史まち歩き（天明泥流痕跡ツアー）

雲林寺は浅間山噴火にともなう天明泥流により、柱二本だけを残し泥流に消えました。当時住職であった十三世枝軒梅庵住職は、大噴火の際、過去帳を逃げ持ち、現在も明暦四年（一六五八）からの記録が当山には保管されています。

⑦十一月二十日
尾坂地藏尊供養祭（長野原一本松地区）

七常会の役員様のみで行いました。

梅花流たより

新型コロナウイルス禍で滞っていた全国大会が今年度関東管区の大会として鶴見の大本山總持寺に於て開催されることになりました。總持寺といえば道元禪師さまの教えを広められた瑩山禪師さまのお膝元として発展しています。

第一部では渡辺監院老師が導師をおつとめになり石附周行紫雲台親下より御垂示を賜りました。

第二部は登壇奉詠です。登壇順は七番までありますが、群馬県は第一番で東京都宗務所が最後となります。関東管区長よりご挨拶があり特派師範による坐禅の後詠歌（浄心）大祖堂の静寂の中奉詠されました。さあ、いよいよお誓いです。梅花部長様より指名され不肖私がお誓いの呼称師をつとめさせて頂きました。

「梅花流詠賛歌を通して正しい信仰に生きます」
「仲良いくらし致します」
「明るい世の中をつくります」
という内容で日々研鑽を積んでいることを表明致しました。全員の登壇が終わった第三部閉会式も終了となりました。菩薩行を実践された瑩山禪師さまのお傍らにもう少し留まりたいという心持ちではありましたが出発の時はやってきました。

今回の関東管区献詠大会参加者は九名でしたが旅行が実施されるのか否か直前まで心配でした。けれど三回以上の新型コロナウイルス対応ワークショップ接種済み証明と身分証明書により全国旅行支援割を使用しとても有意義な旅行となったことをビーエス観光その他関係各位に感謝申し上げます。

轟美代子



関東管区献詠大会前の講習会



関東管区献詠大会（總持寺）



總持寺外観

戦争はしねえほうがいい 人間みな同じ 《ウクライナの今に重ね》

ロシアは今年二月二十四日、ウクライナに攻め込み戦争が始まりました。ウクライナ市民の犠牲は増え続けており、国際社会からはロシアへの厳しい非難の聲が上がっています。戦争経験者はこの戦争をどう思うのでしょうか。

今から九十年前、農業移民の開拓団など約二十七万人の日本人が旧満州(当時満州国)に渡りました。しかし、日本の敗戦で満州国は消滅し、残された日本人の人生は暗転しました。群馬県最初の満蒙開拓青少年義勇軍として一九三八年に満州に渡り、その後戦争を経験した本多嘉義(ともよし)さん(横壁出身安中市在住九十九歳)にお話を伺いました。

「戦争だけはしたくない。殺しっこだもん。せつかくもらった命をとったり、やったりするなんて。馬鹿げた話だ。ロシアの親方(指導者)は何をしているんだか。戦争はしねえほうがいい」

かつての日本が中国を侵略したことと重なって見えるそうです。

本多さんは高等小学校の時「満州では約一〇ヘクタールの地主になれる」と先生の話を聞き、大陸に憧れ、義勇軍の募集に手を挙げました。十四歳の時に茨城県の内原訓練所に入り二ヶ月後には満州に渡り、ソ連(現ロシア)国境に近い満州国黒河省の孫呉訓練所に入所。



弥栄(いやさか)を三唱する本多さん ※弥栄…繁栄を誓い叫ぶ

軍事教練や農業実習をされました。三年の訓練を経て、第一次老虎義勇隊開拓団として四十一年に北安省嫩江老虎溝に入植しました。入植地では現地の住民と祭りなど楽しみました。

「赤い夕日が沈む広大な野原を馬に乗って駆け抜けた。馬の背に立って乗ったりして楽しかったな」

しかし安定した生活は長くはなく、太平洋戦争が始まり、二十歳になった一九四四年に徴兵され、ソ満国境近くのハイラルで関東軍の野砲部隊の通信兵になりました。

「惨めな戦争だったよ」日本の敗戦で満州国は消滅しました。日本軍は武装解除され、本多さんらはシベリアに抑留。冬は零下七十度を超す極寒。朝になると戦友が亡くなっていました。凍った大地に墓穴は掘れず、遺体は置いてくるしかありません。

「かわいそうな死に方をした。俺は満州で育ったから寒さには負けなかったよ。六年ほど抑留され、裸で日本に帰ってきた」

戦後は、長野原町の川原湯温泉の旅館などで働き、独立して民宿旅館「うちばら」を開きました。希望に満ちていた内原訓練所の名前にあやかりました。ハツ場ダムの建設で川原湯温泉から立ち退き、安中市に移転してビジネス旅館を営みました。

戦争を知らない世代に伝えたい。

「満州でもシベリアでもいい人に出会った。どこの国の人でも人間はみな同じ。仲良くすることほどこいことはない」

朝日新聞記事より抜粋



感謝録 割田三男様

前号でお知らせしました、本堂待合室の改修工事一式を割田三男様にご寄附頂きました。十八畳から三十三畳へと広々使えるようになり、既にお越しになられている檀信徒皆様から「快適に過ごせる」とご好評頂いております。

多大なる御支援を賜りましたこと、感謝申し上げます。



節分会 節分講を廃止

二月三日は節分会です。昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、厄払いの祈禱法要のみとし、豆まき会は中止とさせて頂きます。

又、今年度より「節分講」を廃止させて頂き、祈禱申し込み者様にのみ、「御守り」「福豆」「寿菓」「お札」をお配り致します。

ご祈禱を申し込まれる方は、担当の世話人さま、又は雲林寺まで直接お申し込み下さい。

一般祈禱 二千円

令和5年 厄除け一覧(年齢は数え年)

男性			女性		
24歳	前厄	平成12年生	18歳	前厄	平成18年生
25歳	本厄	平成11年生	19歳	本厄	平成17年生
26歳	後厄	平成10年生	20歳	後厄	平成16年生
41歳	前厄	昭和58年生	32歳	前厄	平成4年生
42歳	本厄	昭和57年生	33歳	本厄	平成3年生
43歳	後厄	昭和56年生	34歳	後厄	平成2年生
還暦(男女ともに)					
60歳	前厄	昭和39年生	36歳	前厄	昭和63年生
61歳	本厄	昭和38年生	37歳	本厄	昭和62年生
62歳	後厄	昭和37年生	38歳	後厄	昭和61年生
幼児の厄(男女ともに)			13詣(男女ともに)		
3歳	前厄	令和3年生			
4歳	本厄	令和2年生	13歳		平成23年生
5歳	後厄	令和元年生 平成31年生			

